

食品表示検定 初級 試験問題例
(第14回試験問題より抜粋)

2017年1月
一般社団法人食品表示検定協会

【出題範囲】 第15回の初級試験は、改訂4版認定テキスト・初級からの基礎知識と、それを理解した上での応用力を問います。

【問題例 1】 次の文章の[]にあてはまる最も適切な語句を、①～③の中から選んでください。

生鮮食品の名称は一般的な名称で表示するが、内容を的確に表現していれば、[]で表示することができる。

- ① 標準和名 ② ブランド名 ③ 学名

【問題例 2】 次の表示例において、内容が最も不適切な表示を、①～③の中から選んでください。

《精肉店での表示(無包装の場合)》

- | | | |
|--------------------------|-------------------------------|-----------------------------|
| ① | ② | ③ |
| 鶏むね肉
国産
100g当たり〇〇円 | ロース焼肉用
アメリカ産
100g当たり〇〇円 | 豚ばら肉
鹿児島県産
100g当たり〇〇円 |

【問題例 3】 「アレルギー表示」に関する次の①～③の記述の中で、その内容が最も不適切なものを1つ選んでください。

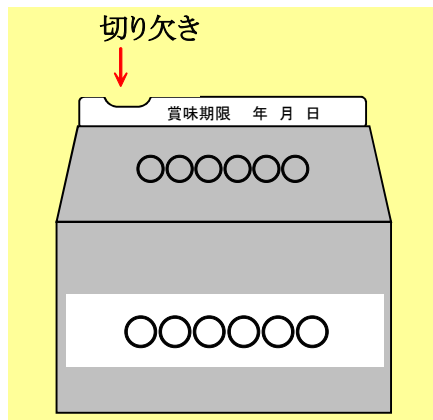
- ① アレルゲンとして必ず表示しなければならない特定原材料は、「卵、乳、大豆、えび、かに、そば、落花生」の7品目である。
- ② 原材料と添加物をスラッシュで区分して表示する場合、それぞれに含まれる特定原材料等について、原材料名欄の最後に一括して表示することができる。
- ③ 店頭で量り売りする惣菜は、アレルギー表示が義務付けられていない。

【問題例 4】 次の文章の[]にあてはまる最も適切な語句を、①～③の中から選んでください。

ナトリウム量に係数[]を掛けることにより、食塩相当量が算出できる。

- ① 0.50 ② 2.54 ③ 3.33

【問題例 5】 紙パックの切り欠き表示の対象食品として、最も適切なものを次の①～④の中から1つ選んでください。



- ① 牛乳
- ② 加工乳
- ③ 乳飲料
- ④ 果実飲料

..... < 正答と解説 >

【問題例 1】正答：①

解説：標準和名で表示することができる。(標準和名とは公式の場合(図鑑等)に使われる名前)

出所：認定テキスト P37 「2-1 生鮮食品の表示の基本 1. 生鮮食品の表示事項 ①名称」

【問題例 2】正答：②

解説：食肉の名称には「牛肉」「豚肉」「鳥肉」等と、食肉の種類(畜種名)を表示する。

出所：認定テキスト P49 「2-3-1 畜産物 食肉 ①名称」

【問題例 3】正答：①

解説：特定原材料は「卵、乳、小麦、えび、かに、そば、落花生」の7品目。大豆は「特定原材料に準ずるもの」に分類されている。

出所：認定テキスト P75 「3-3-2 原材料名<アレルギー表示について>」

【問題例 4】正答：②

解説：ナトリウム量に係数 2.54 を掛けてから単位をグラムに変換すれば、食塩相当量が算出できる。

出所：認定テキスト P219 「6-2 食育 2.毎日の食卓をより健康的なものにする」

【問題例 5】正答：①

解説：切り欠きは「種類別 牛乳」にのみ使用できる表示である。

出所：認定テキスト P139 「4-7 牛乳・乳飲料 ⑧牛乳パックの切り欠き」